



築40年という古い賃貸ビルの一室のリノベーションです。

ビルのレトロな雰囲気合うように、古い部分を一部残したり、昔から使われている素材などを見直して敢えて使ってみることにしました。

もともとオレンジ色の鉄の玄関ドアに合わせ、エントランスの壁は建築家ル・コルビジェが1925年にパリ16区に建てたラ・ロシュ邸に使われた塗装のカラーを使用。

2DKの間取りを1LDKに変更し、14帖になったLDKの床は昔から使われている、Pタイルを使用し、モダンな雰囲気にしました。

天井はそれとは反対に、アフリカの木の一種、アフリカンパドークの突板を使用。空間に重みと深みを加えています。

和室は一室にして、ふすまの張り紙のコーディネートで他の部屋と調和。

パウダールームも昔ながらの洗面台のタイプを敢えて採用。見た目はレトロですが、設備関係はすべてリニューアルしています。

古いのではなく、スタンダードなものとして、このレトロなビルと部屋を楽しんでもらいたいという思いで作りました。

Room renovation for 40 year old apartment. The concept is "Not Old, It's Standard!". Not only renewed facilities, adopted old design and classic material such as 'P-tile' as well as modern architect Le Corbusier's painting colour.



Tビル（福岡市）

2011nt